



ぶは...
だ、脱出の方法も探さず
こんな事をしていて
いいのだろうか...

ちゅ...
は...

は...

は...

きゅ...
きゅ...

確かに...気力の消耗を
避ける為には
気分転換も必要かも
しれないが...

う…

こ、この状況でよく
これだけ勃起できるな…

いつもながら、
君の性欲には感服するよ…

ん…しかも…蒸れてて、
すごい匂いだ…

そうか…ここに来てから何日も、
洗う暇などなかったからな…

尻
ぽん

ん…味のクセも
いつもより濃い…♡

ふ…♡

セク…♡

にゅにゅ♡

にゅにゅ♡

にゅにゅ♡

人…♡

強い臭気もあいまって…
酔っついてしまっそうだ…♡

ん……?
髪も使っ
て欲しいのか?

仕方ないな……
今日は特別だぞ……

私も、快感に喘ぐ君の顔を
もっと見たいからな……

しゅるん
しゅるん
しゅるん

しゅるん

しかし…今日は
随分と甘えん坊だな？

そうか…君といえども、
この状況では
無理もないな…

ちゅーっ

ちゅーっ

大丈夫だ、
私が一緒にいてやるから…

ああ…愛してるよ、空…

ん…向こうから
夜蘭達の話し声が
聞こえる…

見られてしまったら
どう言い訳しよう…

いや…そんな事、
どうでもいい…

あ…♡

あ…♡

あ…♡

あ…♡

ちゅっ♡

ちゅっ♡
ちゅっ♡

今は、彼に
尽くしてやりたい…

空の事だけ、感じていたい…♡



たはははは

い...あ...

あ...あ...

ん...ん...

ミヤンガ

すすりこ...♡

こんな風に溜まっていたのか...♡

ほ...♡

け...♡

ほ...♡

口だけでは受け止めきれなかった...♡

とりあえず...口の中の精液を飲み込まないと...♡

にゃあ...♡

んう……
空の精液…生臭くて、
粘っこくて…
舌にまとわりつく…

もちゅ
もちゅ…

んちゅ
んちゅ…

体の中にも外にも、
濃い精液臭が染みついて…

だめだ…体が悦ぶのを、
隠しきれない…

申せ
ん

心は...♡

きもち、よかったか...？

そうか...

私もうれしいよ...♡

はあ...♡

はあ...♡

ああ...こんな姿、
皆に見られたら大変だな...

♡



うん…またいつでも、
好きなだけ
私に甘えてくれ…

君を放っておくと、
夜蘭や忍にまで
手を出しそうだからな…

ふふ…冗談だよ

ふふ…♡

♡♡

ふふ…♡























